氏　　名	岡　昌平
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博　甲第　6898 号
学位授与の日付	2023 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）
学位論文題目	Low Patient Weight and Long Intubation Time Are Key Factors for Pain during Colonoscopy （低体重と長時間のスコープ挿入は大腸内視鏡の苦痛度に関与する重要な因子である）
論文審査委員	教授 藤原俊義　　教授 光延文裕　　准教授 楳田祐三

学位論文内容の要旨

大腸内視鏡検査の臨床的有用性は確立されているが、多くの患者にとって依然として苦痛である。本研究は、大腸内視鏡検査に関連する苦痛を予測する因子を明らかにすることを目的とした。鎮静剤や鎮痛剤を使用せず、人生初めて大腸内視鏡検査を受け、盲腸まで到達した 283 人を評価した。痛みは、大甲甲腸内視鏡検査直後のアンケートで、Numerical rating scale(NRS)により評価した。患者背景と内視鏡所見を分析し、痛みとの関連性を評価した。283 人の患者のうち、53 人は NRS 0-1 点、48 人は NRS 6-10 点であり、前者と後者の大腸内視鏡検査をそれぞれ無痛と有痛と定義し、両者を比較した。多変量解析の結果、低体重(OR 4.95, 95%CI 1.89-12.99)および長時間のスコープ挿入(OR 3.63, 95%CI 1.46-9.03)が、痛みを伴う大腸内視鏡検査の有意な危険因子であることが判明した。長時間のスコープ挿入に寄与する要因を特定するため、挿入時間の中央値 7 分に基づいて、被検者を挿入時間の短いグループと長いグループに分けた。多変量解析の結果、高齢(OR 2.28, 95%CI 1.31-3.98)、腹部手術歴(OR 1.93, 95%CI 1.13-3.32)、浸潤癌の所見(OR 10.90, 95%CI 1.34-88.90)が、長時間のスコープ挿入の有意な要因であると判明した。

論文審査結果の要旨

大腸疾患の精査のための大腸内視鏡検査は標準的に行われている安全な検査法であるが、患者の苦痛は本検査の施行時における課題でもある。本研究は、大腸内視鏡検査時のアンケート調査に基づいて苦痛を予測する因子を検討した臨床研究である。

鎮静剤や鎮痛剤を使用せずに生涯はじめて大腸内視鏡検査を受けた 283 人を対象に、検査直後にアンケート調査を実施し、Numerical Rating Scale（NRS）にて痛みの度合いを評価して様々な因子について関連性を検討した。283 人中 NRS 0-1 点は 53 人、6-10 点は 48 人であり、それぞれ無痛、有痛として比較検討を行った。多変量解析では、低体重と長時間のスコープ挿入が痛みに対して有意なリスク因子であった。また、スコープ挿入に時間を要する要因を探索する目的で挿入時間の中央値 7 分で分けて検討しところ、多変量解析で高齢、腹部手術歴、浸潤癌の有無が要因と考えられた。

委員からは、NRS 2-5 の症例を省いた理由の質問があり、この群は無痛か有痛かの判断が難しかったとの回答があった。また、高齢者の比率や挿入時間の施設間、術者間での差があるかなどの質問に対しては、大きな差はなかったとのことであった。

本研究は、大腸内視鏡検査の際に低体重と長時間のスコープ挿入が苦痛を生じるリスク因子であり、高齢、腹部手術歴、浸潤癌の有無がスコープ挿入に時間を要する要因であるということを明らかにした点で、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。